

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400167		
法人名	特定非営利活動法人三山の家		
事業所名	グループホーム音羽の森		
所在地	群馬県伊勢崎市境百々東19番地16		
自己評価作成日	令和3年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々自身の持てる力、能力を出来る限り活用していただけるようなケアの工夫を行い、自発性の拡大に繋がるよう努めています。午前・午後には体操を行い、運動の機会を確保するほか、レクリエーション、季節毎や、利用者の方個別のイベントでは、特別な食事等を準備し楽しんでいただけるような取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のできる力を発揮できるよう、週1回の食事レクリエーションではそれぞれにできることを担ってもらったり、洗濯物たたみやキーボード演奏など得意なことしてもらったり、ブレンダーで野菜づくりを行ったりしている。また、日々の生活のなかでは、居室の鍵をしたいひととはできるようにしたり、トイレでの排泄ができる方は人目から離れたトイレを使うのをそっと見守ったり、洗濯物は人前では渡さないなど、一人ひとりの生活を尊重した支援が行われている。あわせて、利用者の支援においては、市に疑問があれば相談しながらサービス提供を行うなど、積極的に関わりを持つ努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はホーム内に掲示しているほか、パンフレット等に記載があり、全職員が念頭に置き、日々のケアにあたっている。	理念を掲示し、職員の意識づけを図っている。事業所内で話し合い、「自分が利用したい施設」という目標を掲げ、そのための安心した環境づくりにむけて取り組んでいる。環境には、職員も含まれるという意識のもと行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため、外出できないが、道路のごみ拾い活動や、近所の方と挨拶を交わしている。	コロナ禍前は、子供神輿が立ち寄るなど利用者が住民と交流する機会があったが、現在は自粛しており、近隣の方との挨拶や、職員が地域のごみ拾いに参加してつながりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナのため、できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため、できていない。	コロナ禍のため運営推進会議は開催できないが、家族には最低でも月1回は必ず連絡をとり、毎月写真を掲載したお便りを送り、区長とは月2回広報を届けてくれる際に玄関先での情報交換を行っており、事業所の取り組みを知ってもらう努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方のサービス提供状況等を報告している他、事故対応等でも協力を仰いでいる。	家族の要望への対応など少しでも疑問があれば問い合わせを行い、確認しながらサービス提供を行っている。そうした機会を持つことで、関係性を築くようしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り行っている。	立ち上がり転倒の恐れのある方もいるが、動きたいというその方の意思を尊重し、センサーを設置するなどしながら見守りを重視して、身体拘束をしないケアを行っている。日々の気づきは、情報共有し、記録して防ぐ努力を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	可能な限り行っている。 勉強会の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	可能な限り行っている。 勉強会の実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての利用者様、家族に契約書及び重要事項説明書の内容を説明の上、承認印を頂き、その際に質問等あれば答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人のアセスメントや面会時の家族からの意見等を職員間で共有すると共にケアに反映している。	家族からコロナ禍の面会についての問い合わせもあり、タブレットを購入しオンライン面会ができる環境を整えている。家族が意見を言える雰囲気づくりとして、コロナ禍前は、面会時に事業所の様子を知ってもらおう積極的に取り組んでいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上サービス担当者会議を開催し、意見の取りまとめを行っている。他にも、日常の業務内での意見や疑問等に答えている。	毎月の職員会議には、理事長もしくは統括がほぼ出席し、その他、パート職員も含めた全職員の自己評価考課面談が行われている。また、そうした機会だけでなく、個々の職員が理事長に連絡・相談する機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員への声かけや意見を聞くようにしており、給与や休み等も勤務状況に見合ったものとなっている。職員の得意分野を生かせる職場作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナのため、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の管理者、本部で、定期的に会議を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前や契約時からできる限り話し合いを行い、入居後も本人様ができる事を探り、やりがいや自信につながるような支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時からできる限り話し合いを行った上で、適切であろうと思われるアドバイス等を行い、不安・解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態や家族の要望を踏まえて提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩の話を聞き学び、尊敬の念を抱きつつできる事を共に探り、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族と生活状況を報告し、今後のケアに繋がるよう一緒に考えている。定期往診以外の受診は、可能な限りご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのためできていない。	友人が面会に訪れる方もおり、そうしたときには居室でゆっくり過ごせるよう配慮したり、年賀状が届く方には家族に伝えたりして、関係が継続できるようにしている。生活歴から利用者の出身地の言葉で話し、そこから生まれ育った話を聞いたり、出身地の食べ物を提供したりして、馴染みの支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が介入しつつ、お互いに関心を持ってもらえるようコミュニケーションがとれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様や家族の希望に応じて、退居後の受け入れ先の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや家族の意向に沿えるよう日常生活での言動やコミュニケーションの中から思いを汲み取り、希望や意向の把握に努めている。	利用者の思いに寄り添い、話を聞き共感するようにしている。とくに、1対1になる入浴時は、そうした機会と捉えている。拒否する方には、信頼関係の構築も大切であると考え、その日1日でも利用者に見えていただく努力をするとともに、職員同士協力しあい対応職員を変えて行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の情報提供書、生活歴等、職員が常時閲覧できるようにし、情報を共有している。これまでの生活を大切にしたい支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや習慣等を日々の生活の中で観察しながら、心身状態の見極めや現状把握に努めている。声かけや作業工程を工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を基に、カンファレンス・モニタリングを行い、各々の意見を反映した上で、現状に即した介護計画を作成している。	職員は、受け持つ利用者のアセスメント・モニタリングを行い記録し、その「ケアのアイデアと工夫」をもとに、他の職員も全員参加で意見を記載し、そのまとめた結果が、ケアプランの目標・ニーズとしている。日々の記録には、ケアプランがいつでも見られるようファイルしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の観察や気づき、家族の要望等をケース記録に記入し、職員間で情報共有を行い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに臨機応変に対応し支援している。かかりつけ医の往診や訪問歯科、訪問美容の導入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのためできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族の希望を反映し、かかりつけ医に継続して受診する方、往診を希望される方がいる。	かかりつけ医の受診の際は、家族に事業所での状況のメモとバイタル等の表をコピーして渡している。協力医の月2回の往診、24時間対応の訪問看護がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護職員はいないが、往診時には、直接、家族対応での受診時は家族を通して状況を伝え、服薬等の調整をしている。訪問看護の連絡先を周知している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には入院先の病院との情報交換を行っている。退院後も出来る限りホームで受け入れられるような方向でやりとりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いの中で希望を伺ったうえで、ホームで出来る範囲でのサービスを行うことを伝えていている。	入居時に、看取りは行わないことを伝え、医療的依存度が高くなったとき、浴槽を跨げなくなったときには、本人の安楽を考え、事業所での生活が難しいことを説明し、事前に次の施設等の選択肢を伝えることをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については、会議をもち、話し合いを行っている。緊急時の持ち出しファイルを各利用者ごとに準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。今後も夜間想定訓練を行うとともに、火災以外の訓練も行っていく予定。	年2回消防訓練を昼間想定で行っている。コロナ禍前は、運営推進会議終了後に行い、運営推進会議のメンバーにも参加してもらったこともある。近隣の店舗とはこれまで道路清掃などのつきあいもあり、今後、協力依頼にむけて挨拶にいくという考えがある。	今後、夜間想定訓練も行うなか、近隣の店舗も含め近隣の方との交流をもとに、協力への働きかけが行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを考えつつ話を聞き、また、その方の生活歴等を考慮しながら、声掛けや対応を行っている。	利用者がある場合には、申し送りは利用者にはわからないようにイニシャル等で行っている。入浴の際には、とくに拒否する場合には羞恥心に配慮してタオルをかけて、ときにはタオルがかけたまま行うなど、細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り利用者に関わる時間を持ち、傾聴に努めている。自分から訴える事が困難な方には、職員側から問いかけたり、気持ちを汲み取るようしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた日常生活ができるよう、その日の体調も考え、希望に沿う支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、洗髪等自身でできる方には行って頂き、また希望者には2ヶ月に1回訪問美容も利用できる。衣類の選択もできる方には行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえ等できる方には、お願いしている。好き嫌いや、その日の希望を考慮し提供している。下膳できる方には行ってもらっている。	食材を購入し、職員が手作りしそれを記録して、記録をもとに同じ食材が続かないように配慮している。利用者の声を聞き、それを提供することで、意見を認められたということを味わえるようにしている。週1回は食事レクリエーションを行い、利用者のできる力にあわせて役割を担ってもらい、食事やおやつづくりを行うことで食欲を高める支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれたメニューを考えている。水分摂取量を必要に応じ確認し、その都度声かけ、味を変えるなど工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導を行っている。自分で行うのが不可能な方には、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのサインに注意する。声掛けや定時での誘導をするなど、なるべく失禁せず、トイレで排泄できるように介助している。支援をしている。	利用者が独語を話す、テーブルをたたくなどそれぞれのサインを見逃さず、全員がトイレでの排泄を行っている。トイレへの誘導は、そのときの状況で言葉を選び、わかりやすく羞恥心に配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に体操、運動の機会を確保するとともに、水分や食物繊維を多めに摂って頂き、更に下剤も併用しながら予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番等、希望に沿った形にしている。リラックスできる時間を提供している。	基本週3回を入浴としている。脱衣所で音楽をかけて、最近では入浴剤の種類を増やしたりして、リラックスできる雰囲気づくりをしている。拒否する方には、時間を変えたり、「お風呂」という言葉を使わずに脱衣所まで誘導して、湯気や入浴剤の香りから入浴につながるよう行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促しつつ、昼夜逆転を防ぎ、内服薬等も併用しながら生活リズムが作れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表はすぐ閲覧可能な場所にあり、記録、その後の状況観察に努め、医師・看護師にすぐ報告できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会等の実施、掃除や洗濯物たたみといった出来る範囲の事をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため、実施できていない。	コロナ禍前は、初詣・花見・買い物などさまざまな外出が行われていたが、現在は自粛しており、庭先での外気浴やプランターでの野菜づくりが行われている。警戒度が下がったいま、早速、車窓からの景色をたのしむドライブを企画して、季節を感じてもらおう計画がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族側と相談し、ホームでは、基本的に金銭を所持することは控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の希望があれば対応するが、利用者様に負担にならない程度にとどめてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは、昔なじみの曲等を流したり、行事や季節感を取り入れた写真の掲示等している。トイレにはわかりやすい目印がある。	コロナ禍で外出ができないため、利用者があきないように制作したものや写真を以前よりも飾って、そうしたことでその反応やその反応をきっかけに話題の糸口になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは、好きな場所でくつろげるようにしている。席順は、気の合う利用者同士に配慮したものとなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力も得ながら、自宅で使用していた家具・小物類を持ち込んで頂いたり、アルバム・家族の写真等を貼っている方もいる。	安心できるものである、以前に使っていた直物やタンス・仏壇が持ち込まれ、テレビを見たり、なかには、キーボードやハーモニカを演奏したりしている方もいる。入居前からの部屋と同様に、紙でつくったものを多く収集している方もおり、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりに目をくばり、必要な時は職員も介助しながら、なるべく自身で動けるよう工夫している。		